



4

FUTURE COCREATION VISION

未来共創ビジョン

4-1

基本理念



八幡東田

未来を創る 世界を変える

次の百年をつくるのは私たちです

私たちは自らの手で世界を変えることができると信じています

私たちはこの地の革命の遺伝子、メーカー魂を継承する志民として

誰も見たことのない未来に向けて、失敗を恐れず、常識にとらわれず

多様な価値観を持つ仲間と共に、たゆまぬ挑戦を続けます

一人ひとりの想いをカタチに

世紀を超えて



4-2

基本コンセプトと目指すまちの姿



ヤワタ未来共創所

YAWATA FUTURE COWORKS

革命の遺伝子を継承し
持続可能な未来づくりに向けて
進化し続ける共創プラットフォーム

* 旧「八幡製鐵所」の呼称は、「やわたせいてつしょ」(Yawata Steel Works)。
「八幡」は、住居表示では「やはた」、製鐵所を指す場合は「やわた」と呼称されていた

ヤワタ未来共創所

未来を創る 世界を変える

「創る」まち

この地に息づく産業革命の遺伝子、**メーカー魂**を継承し、新たな産業・ビジネスや生活・文化を創り出すことを楽しみ、生産と消費が調和しながら、常に進化し続けるまち

「境界の無い」まち

世代、ジェンダー、障害、定住者・就業者・来街者、個人・企業、公・民等の境界や枠にとらわれない多様・多彩な志民が集い、交わり、自由闊達に共創する**ボーダーレス**なまち

「先駆ける」まち

失敗を恐れない**先駆的な実験都市**として、地域や地球規模の課題解決に挑戦し、試行錯誤の成果を多くの地域や世界の人々と共有し、持続可能な未来への変革を先導するまち

4-3

重点戦略



八幡東田

基本理念・コンセプトに基づく「目指すまちの姿」
の実現に向けて4つの重点戦略を柱にアクションを展開



TEAM
BUILDING



PLACE
MAKING



CHANGE
MAKING



AREA
PLATFORM

4-4

アクション



八幡東田

重点戦略

志民の
輪づくり
繋がる

共創の
場づくり
創る

変革への
挑戦
跳ぶ

活動の
土台づくり
支え合う

リーディング
アクション

出会う、つながる
シェア東田まつり

公共空間社会実験
メカズ・ストリート

パブリックアート
プロジェクト

東田ストリート
ガーデン

街区まるごと
実証フィールド

エリアプラットフォーム
の拡充

提案

都市デザインの
アップデート

持続可能な
集客拠点づくり



新たなアクション・提案を
持続的に喚起、触発

アクション X

提案 α

アクション Y

提案 β

アクション Z

4 -4-1 出会う、つながる「シェア東田まつり」

八幡東田未来共創ビジョン

LEADING ACTION #001

■ 現況・課題

- 2012年より働く人、住む人、訪れる人など多様な志民が出会い、つながるための場として、「シェア」を合言葉に、おもちゃり、わかちあい、おすそわけの精神で生まれた東田ならではのまつり
- 東田地区内のオープンスペースを主会場として数回開催
- ボランティア主体の実行委員会方式による自主企画・運営のため、不定期開催となっている

■ アクション概要

- 志民、地域団体等による自主企画・運営体制を継承、エリアマネジメント団体（都市再生推進法人等）との連携により、定期開催化を図る
- 東田大通り公園、JRスペースワールド駅前広場等の公共空間を中心とする公民オープンスペースを会場とする
- 従来同様、中央区商店街、枝光商店街等とも連携開催を図る

■ アクション効果

- まちづくりへの多様な志民の主体的参画による「志民の輪」の拡大、周辺エリア等とのゆるやかな連帯
- 東田地区内オープンスペース等での多様な活動の場、居心地の良い場づくり



■ 実施主体・事業手法・スケジュール等

実施主体：これまで通り実行委員会方式
 都市再生推進法人等も主体的に参画
 事業手法：志民、NPO、企業、団体等のおもちゃり、わかちあい、おすそわけによる実施（一部、企業・団体協賛等）
 スケジュール：2025年度より定期開催化を目指す

4-4-1-2 シェア東田まつり：アクションプログラム

シェア東田まつり

- ・東田大通り公園などの地区内公共空間を主会場として働く人、住む人、訪れる人など多様な志民が出会い、つながるための場として、「シェア」を合言葉に、おもちより、わかちあい、おすそわけの精神で生まれたおまつり
- ・これまでの実績、ネットワークを継承し、中央町、枝光等周辺地域とも連携して定期的開催を目指す。

シェア東田新聞

- ・「シェア東田まつり」に連動してNPOにより創刊されたコミュニティ新聞。
- ・東田地区の施設、活動、プロジェクト等を紹介。スマートコミュニティ創造事業や東田コジェネ事業あるいは世界遺産などの当地区の話題をわかるやすく発信している（毎年発刊中）

関連プロジェクト：「ココスマツアー」

- ・「東田スマートコミュニティ創造事業」および「水素タウン」等の実証プロジェクトの視察ツアーと開発、催行中（主体NPO）。
- ・ピーク時（2014-2015）は、国・自治体・企業等年間200団体以上を受け入れるなど、実験都市・東田の情報発信に大いに貢献している。多様なプロジェクトや活動等をさらに広く紹介するツアーとして新たな展開を図る。



4 -4-2 公民空間利活用社会実験「メーカーズ・ストリート」

八幡東田未来共創ビジョン

LEADING ACTION #002

■ 現況・課題

- ・本地区の中核的なオープンスペースである東田大通り公園を中心とする公共空間は、大規模であるが故に、街区の分断要素ともなっており、魅力ある場づくりによる滞在快適性や歩行回遊性の向上が求められている。
- ・本課題に対応するため、官民連携の下、2017年より公共空間利活用の社会実験の試行等に取り組む中。

■ アクション概要

- ・東田大通り公園リニューアル（北九州市、R8完工予定）に合わせて、JRスペースワールド駅前広場などの活用ならびに東田大通りの歩行者天国化等ならびに民間集客施設等とも連携した利活用を促進する
- ・これまでの社会実験試行等をふまえ、常設事業化への展開に向けて、単発・不定期イベントから、継続的、定期的開催に取り組む
- ・事業内容も既存の飲食、物販等をベースに、BBQ、キャンプ、スポーツ等の参加型、自主企画型プログラムの試行にも挑戦する

■ アクション効果

- ・オープンスペースの滞在快適性ならびに歩行回遊性の向上
- ・まちづくりへの参画者（出店者、利用者、サポーター等）のネットワーク拡充
- ・収益事業化や自主企画等による自立・自走の利活用の進展など



MAKER'S STREET

八幡東田未来共創社会実験

八幡東田未来共創社会実験
「メーカーズ・ストリート」 2023, 2024

■ 実施主体・事業手法・スケジュール等

- ・実施主体：（一社）八幡東田エリアマネジメント（都市再生推進法人）を中心に、関連団体（八幡東田まちづくり連絡協議会、地域団体、NPO等）大学、行政等による公民連携
- ・事業手法：公民連携の下、民間主導事業として実施（公的支援策等活用）
- ・スケジュール：R5年度より試行中の社会実験「Maker's Street」等を継続。その成果をふまえ、段階的にエリア拡大、定期開催化、常設化等を図る。

4 -4-2-1 メーカーズ・ストリート：アクションプログラム

八幡東田未来共創ビジョン

東田大通り公園等の利活用

- ・東田大通り公園を中心に、公民オープンスペースを活用した社会実験の継続的实施
- ・まちなかキャンプ、バーベキュー、スポーツなどの個人・団体等の多様な主体による自由な活動の促進を図る

歩行者天国化

- ・居心地の良い都市環境づくりと歩行回遊性の向上のため、地区のコアゾーン（滞在快適性等向上区域）を中心に自動車のための空間（道路、駐車場等）の段階的な再配置やスペース縮小を図る。
- ・街区のシンボル空間である「東田大通り」の歩行者天国化等の社会実験を実施、その効果や社会的受容性等を検証する。

駅前広場等利活用

- ・JRスペースワールド駅高架下空間を活用した社会実権（集客イベント）の定期的な実施
- ・上記の成果をふまえた定常的な空間活用施策への段階的展開



ニューヨーク
タイムズスクエア（米国）



4 -4-3 パブリックアートプロジェクト

八幡東田未来共創ビジョン

LEADING ACTION #003

■ 現況・課題

- ・北九州市の顔となる広域集客拠点に相応しく、イノベーションを先導する多様な人材を誘引するような「彩り」があり、創造的な都市景観となっていない
- ・地区内屋外空間の「4割」近くが黒アスファルトの現況（駐車場、道埋、外構等）。無味乾燥の景観に加え、ヒートアイランド現象等都市環境の阻害要因ともなっている。

■ アクション概要

- ・街全体をキャンバスに、誰もがアーティストとして参加し、持続可能な未来都市に相応しい都市景観、都市環境を創造するサステナブル・アート・プロジェクト
- ・公民オープンスペースや施設等へ塗装や表面加工を中心としたパブリックアートを展開、多様な主体、志民参加によるコミュニティ醸成
- ・遮熱塗装等の技術導入による都市のヒートアイランド現象抑制の社会実験として地球温暖化対策等にも貢献

■ アクション効果

- ・持続可能な未来共創都市の「見える化」
- ・創造性豊かな多様な人材の誘引と育成
- ・地域価値向上とシビックプライド、愛着意識の醸成
- ・連続するパブリックアートによる歩行回遊性の向上



出典：米国ブルームバーグ財団
アスファルトアートプロジェクト

■ 実施主体・事業手法・スケジュール等

- ・実施主体：公民の各施設管理者が段階的に実施
（クリエイティブ調整はアドバイザー委員会等設置）
- ・事業手法：民間主導事業として実施（公的支援策活用）
- ・スケジュール：R5年度より実施中の社会実験の成果をふまえ、段階的にエリア拡大、対象施設の多様化などを図る。

4 -4-3-1 パブリックアートプロジェクト：アクションプログラム

八幡東田未来共創ビジョン

まち全体がキャンバス： 「地上絵」プロジェクト

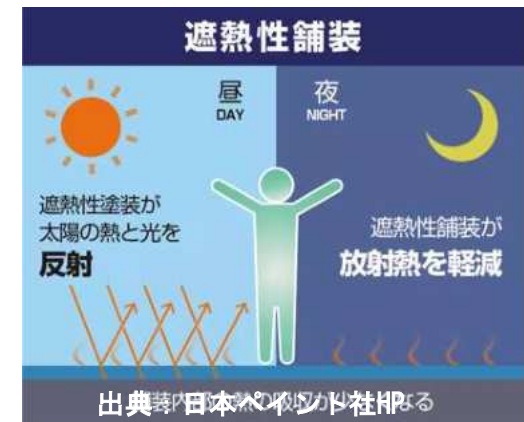
- ・ エリア内の屋外空間（施設外構、駐車場、道路等のアスファルト、コンクリート等）へ「地上絵」を施すことにより、都市景観の改善と滞在快適性向上を図る。
- ・ 志民の主体的参加による「歩いて見て楽しいまちづくり」推進と共に、地域への愛着やプライドの醸成を促進する。

誰もがアーティスト： チャレンジドアート・プロジェクト

- ・ 一昨年から取り組んできた障害者アーティストと地元高校生等の協働による公共空間や民間施設での作品制作や展示など。ボーダレスな志民の参加によるパブリックアートの高架下など空間を活用した集客イベントの実施
- ・ 定常的な空間活用への展開

持続可能なパブリックアート： 遮熱塗装プロジェクト

- ・ アスファルト舗装エリアへの遮熱塗装採用等による都市環境改善（ヒートアイランド減少、地球温暖化の抑制等）を図るとともに舗装面耐久性や景観、安全性の向上を図る。



4 -4-4 東田ストリートガーデン

八幡東田未来共創ビジョン

LEADING ACTION #004

■ 現況・課題

- ・低い緑被率（10%未満）や生物多様性
- ・緑地管理不十分で滞在快適性が確保されていないオープンスペース
- ・「彩り」が不足する都市景観
- ・市民が楽しく、企業・団体が有意義に参加できる活動の場がない

■ アクション概要

- ・地区内の公民屋外空間（道路、公園、広場、緑地、駐車場等）を対象に、「花」や「食べ物」あるいは地域の植生を活かした「彩りのある」グリーンインフラを公民共同参画の下、整備・運営する
- ・シンボリックな「薔薇」やエディブルガーデン（はこ畑）あるいは多年草等の地域植生等の導入や鉄製プランター開発等
- ・「一人一花運動」等行政施策との連携地区内食品残渣、剪定枝・芝等堆肥化による資源循環試行など

■ アクション効果

- ・市民参加による彩りある都市景観・都市環境の構築
- ・緑被率（緑視率）改善、オープンスペースの快適性向上
- ・生物多様性の向上、サーキュラーエコノミーへの貢献
- ・「緑の回廊」形成によるエリア回遊性の向上



■ 実施主体・事業手法・スケジュール等

- ・実施主体：実行委員会方式など（八幡東田エリアマネジメント、八幡東田まちづくり連絡協議会、NPO、企業、造園家団体、大学、北九州市等による公民連携組織）
- ・事業手法：民間主導事業として実施（公的支援策活用）
- ・スケジュール：R7年度より社会実験「Maker's Street Garden」を試行。以降、その成果をふまえて、段階的にエリア拡大、実装化を図る。

4 -4-4-1 東田ストリートガーデン：アクションプログラム

八幡東田未来共創ビジョン

「薔薇のある街と暮らし」プロジェクト

- ・「薔薇」を通じて自然の豊かさを感じられる街として、一人一花運動を促し持続可能な環境づくりに貢献する。
- ・地域の人々が薔薇の栽培やケアを通じて関わり合い、協力し合うプログラム（年間講座：お手入れ実習等）を設ける。
- ・子どもから大人まで幅広い世代が参加でき、地域全体で「薔薇のある街と暮らし」を共有することで愛着を深める。

スチールプランタープロジェクト

- ・鉄都・八幡ならではの鉄製プランターやドラム缶を利用した可動式花壇での植栽展開、「鉄と花と緑」の豊かな街のイメージ訴求。
- ・プランターには季節のイベントの案内や、企業・団体等のPR・広告、アートなどを防水ポスターやタペストリーで掲示。

緑の回廊（MAKER'S STREET GARDEN）プロジェクト

- ・公園、駅前広場、歩道や広場等の公民パブリックスペースを活用した「緑の回廊」形成を段階的に図る。
- ・優美な花だけでなく、地域に根付く植物（雑草、野草）にストーリーを語らせる緑のネットワークづくりを進める。
- ・草花の種類や配置の仕方を工夫し、季節、年月と共に刻々と姿を変え、「育つ」都市緑地づくりに挑戦する。



4 -4-5 街区まるごと実証フィールドづくり

八幡東田未来共創ビジョン

LEADING ACTION #005

■ 現況・課題

- ・八幡東田地区は、高度な複合都市機能とICT、エネルギー、交通基盤を活用し、「環境パスポート」、「スマートコミュニティ創造」、「水素タウン」あるいは「東田コジェネ」、「環境共生住宅」などカーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーなど様々な分野で先駆的な実証事業や社会実装が実施され、国内外の注目を集めてきた。
- ・これらの実績を背景に、国に「東田Super City for SDGs構想」を提案、その実現に向けて「東田・未来都市プロジェクト」を始動、東田でのさらなる持続的な実証プロジェクトの展開が期待されている。

■ アクション概要

- ・個別分野の実証事業展開を継続するとともに、群流データやデジタル都市モデル、モビリティなどの実証基盤整備を進めることにより、分野横断的、総合的な実証フィールドを構築する。
- ・街区まるごとの実証フィールド化による未来のショーケース「常設博覧会」化を進める。

■ アクション効果

- ・東田の複合都市機能を活用した実証事業での持続的展開等による街区全体の「常設博覧会」化による広域集客力のさらなる向上
- ・多様・多彩、クリエイティブな人材誘引と新たな技術・サービス、ビジネスやライフスタイルの創出、発信



■ 実施主体・事業手法・スケジュール等

- ・実施主体：既設の「東田・未来都市プロジェクト」推進コンソーシアムを中心に新たなプロジェクト開発や支援を行う体制を構築（北九州産業学術推進機構、大学、企業、行政、八幡東田エリアマネジメント、等による産学官民連携組織）
- ・事業手法：民間主導事業として実施（公的支援策、研究開発資金等を活用）
- ・スケジュール：個別実証推進とともに実証事業を促進するデータ収集基盤や都市Mモデルなどの実証フィールド基盤構築に係る実証事業の想起導入を図る。

4 -4-5-1 実証フィールドづくり：アクションプログラム

八幡東田未来共創ビジョン

まちづくりDX 群流データ計測プロジェクト

- ・ 大型商業施設の来街者やミュージアム群への来訪者の回遊状況等のデータを取得する社会実験を実施する。
- ・ 取得した群流データを活用し、まち歩きの基盤構築を目指す。
- ・ 将来的には、マーケティング支援や防災支援などの多様な地域課題への応用を見据える。

まちづくりDX 3D都市モデルプロジェクト

- ・ 地域に潜在的にある資源を直接観測する「都市動態把握のための移動型観測システム」を開発し、データを取得する。
- ・ 取得したデータから、利用価値の可視化・定量化、ユースケースの開発を進める。
- ・ 将来的には、志民や事業者が地域資源の価値を理解し、地域資源循環の行動変容が当たり前になることを支援する。

スマート&サステナブル モビリティ特区プロジェクト

- ・ 基幹交通ネットワークの結節点からのラストハーフマイルの移動の利便性・回遊性を向上につなげる社会実験を実施する。
- ・ 既存のレンタサイクルなどの配置やネットワーク化、走行レーン整備などのインフラ検討を進める。
- ・ 将来的には、利便性、回遊性向上により、集客力の強化、生活の快適性につながる。



4 -4-6 エリアプラットフォームの拡充

八幡東田未来共創ビジョン

LEADING ACTION #007

■ 現況・課題

- ・八幡東田地区は、区画整理事業段階からエリアマネジメントの導入を前提に開発を進め、官民の開発関係者、立地事業者等によるまちづくり団体「八幡東田まちづくり連絡協議会」や施設等の群管理サービスを担う事業体の設置等を行い事業・活動を続けてきた。
- ・スペースワールド跡地開発による土地利用転換等に伴い、公民屋外空間の一体的な利活用等を担うエリアマネジメント等のソフト基盤整備が求められている。

■ アクション概要

- ・八幡東田地区のまちづくり推進組織である「八幡東田まちづくり連絡協議会」（2000年設立）に加え、公共オープンスペースの利活用や総合的な管理運営を図るため設立した「（一社）八幡東田エリアマネジメント」（都市再生推進法人）による総合エリアマネジメントサービスの早期本格事業化を図る。
- ・合わせて地域社会課題の発掘や新たなプロジェクト開発等でアクションを創出、加速する中間支援機能を担う主体の組織化の可能性検討する。（例：アーバンデザインセンター、フューチャーセンター等）

■ アクション効果

- ・公民オープンスペースの一体的利活用や総合的な管理運営により、街区全体の滞在快適性や回遊性向上を図る。
- ・中間支援機能により持続的な地域社会課題の発掘や新たなプロジェクト開発の推進。



■ 実施主体・事業手法・スケジュール等

- ・実施主体：
 - （一社）八幡東田エリアマネジメント（都市再生推進法人）
 - およびNPO・まちづくり団体、企業、大学、行政等による公民連携組織
- ・事業手法：民間主導事業として実施（公共空間管理運営業務統括等）
- ・スケジュール：R4年度より実施している公共空間社会実験を試行継続。その成果をふまえ、段階的にエリアマネジメントサービス事業領域の拡大、総合管理体制化を図る。

4 -4-6-1 エリアプラットフォームの拡充：アクションプログラム

八幡東田未来共創ビジョン

パブリックスペースの運営管理

- ・公共オープンスペースの利活用や総合的な管理運営を図るため設立した「（一社）八幡東田エリアマネジメント」（都市再生推進法人）による総合エリアマネジメントサービスを開始する。
- ・公民オープンスペースの一体的利活用や総合的な管理運営により、街区全体の滞在快適性や回遊性向上を図る。

エリアの活動を支援・サポートする組織づくり

- ・社会実験や実証事業を推進する過程で、志民や事業者の活動を支援するアーバンデザインセンターや地域課題を発掘するフューチャーセンター等の機能を持つ中間支援組織ならびに事業者の技術革新や実証フィールドの活用を支援するイノベーションセンター機能等を持つアクションアクセラレーター等の組織化の検討を行う。

志民や事業者が集う場づくり

- ・志民や事業者が、八幡東田エリアの将来やブランディングなどを意見交換する機会を定期的で開催し、アクションプログラムの更新・追加を進め、進化するまちづくりを進める。
- ・交流促進と共創を図ることで、アクションプログラムの具体化、アクションベースドのまちづくりに伴走する拠点を目指す。



4 -4-7 都市デザインのアップデート

八幡東田未来共創ビジョン

ACTION PROPOSAL #001

■ 現況・課題

- ・ 区画整理事業前のマスタープラン策定（H5）から30年以上経過
- ・ 開発の進展、スペースワールド地区等の土地利用の転換など、時代要請に対応した都市デザインへの見直しを図るべき時期を迎えている
- ・ 新たな価値創出へ挑戦する実験都市に相応しいアップデートを議論する場の設定が求められている

■ アクション概要

- ・ 有識者、地権者、開発事業者、行政等の産学官民の関係者により都市デザインを検証、アップデートを検討する場の設置。
- ・ 開発の進展に伴う、土地利用の高度化促進、大規模駐車場の適切な再配置、東田大通り等の都市軸の活性化に資するゾーニング、用途の見直し、持続可能性、生物多様性等に配慮した都市空間形成計画、グリーンインフラ計画策定など
- ・ 加えて、東田地区の開発効果を活用した周辺地域の開発事業（住宅等）、交通計画等の地域デザインの検討など

■ アクション効果

- ・ 新たな都市デザインの考え方に基づくまちづくり地域デザイン計画（マスタープラン）のアップデートによる開発促進
- ・ 持続可能な都市モデルの構築と他地域への展開



「八幡東田地区周辺まちづくり地域デザイン基本計画策定調査」
(平成5年3月 北九州市)

■ 実施主体・事業手法・スケジュール等

実施主体：官民連携（行政（北九州市等）、開発事業者、地権者等）

事業手法：委員会、研究会など

スケジュール：R7年度以降、早急に

4 -4-8 持続可能な集客拠点づくり

八幡東田未来共創ビジョン

ACTION PROPOSAL #002

■ 現況・課題

- 2022年スペースワールド跡地への官民連携の複合集客施設開業等に伴い地区全体として年間2千万人を超える来街者を迎える広域集客拠点化が進展
- 2015年には官営八幡製鐵所関連施設が「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界文化遺産に登録されるなど観光資源の充実が進んだ。
- 一方で地区全体の一体感は形成されておらず回遊性等に課題がある

■ アクション概要

- 「スペースワールド」、「北九州博覧祭2001」のレガシー継承
- 公民の集客施設、特に学習・文化施設とスポーツ・アミューズメント施設等の連携により「エデュテイメント」拠点化を図る
- 持続可能な社会実現に向けた多様な分野での実証実験プロジェクトも進行しており、街区まるごと「常設博覧会」としての訴求を図る
- サスティナブル・ツーリズムへの対応（グリーンディステーション認証取得、サスティナブル・ツアー開発等）に取り組む

■ アクション効果

- 一体的な魅力発信や回遊性向上による広域集客力のさらなる強化とこれに伴う地域活性化
- 次世代を担う多様性、創造性に富む人材の誘引、育成
- まちづくりへ主体的参画する「志民の輪」の拡大



■ 実施主体・事業手法・スケジュール等

実施主体： 東田ミュージアムパーク委員会の機能を引き継ぎ、公民の集客関連施設による協議体を設置（含む都市再生推進法人等）、個別施設事業の企画調整等実施
 事業手法： 各施設の催事・イベント等、オープンスペースでの各種イベント等との連携により推進
 スケジュール： 2025年度より協議体設置、連携事業の試行実施→効果検証し可能なものから定常化

4 -4-8-1 持続可能な集客拠点づくり：検討の方向性

八幡東田未来共創ビジョン

ACTION PROPOSAL #002

八幡東田地区における持続可能なツーリズム開発の方向性(案)

観光からツーリズムへ

- ・人口減少時代の対応策として、観光による交流・関係人口増は地域経済活性化に期待高まる
- ・一方、オーバーツーリズムの弊害が発生・・・地域住民の暮らしや豊かさを尊重する観光へ(⇒サステナブル・ツーリズムの概念)
- ・新型コロナウイルス拡大による観光スタイルの変化と域内観光やコミュニティツーリズム重要視
- ・「観光」から「ツーリズム」への進展

基本的な視点

西日本最大級の広域集客拠点となる東田地区のポテンシャルを持続可能な地域価値の向上につなげる

視点1. サステナビリティ

北九州市の持続可能なまちづくり都市戦略の推進拠点地区として、企業、地域と来訪者が協力し、地域の持続可能な発展と市民の幸福 (well being) をも作り出すサステナブルな観光開発に取り組む

視点2. エデュテイメント

市の新科学館、民間による北九州グローバルゲートウェイ(英語村)がオープンするなど、エデュテイメントのコンセプトの継承とさらなる充実が図られ、これらの施設の総合的連携や活用を図る

視点3. イノベーション

我が国の産業革命発祥の地のレガシーと現在の高度な産業技術集積、SDGs実現に貢献する多様な分野の社会実証プロジェクト等によるイノベーションの体験を観光振興にもつなげる

地域のポテンシャルと課題

ポテンシャル

- ・東田地区 50ha のエリア内に、商業施設、文化施設(博物館、産業遺産など)の集客施設が集積
- ・2022年度春にはイオンモール「THE OUTLET」オープンに伴い、年間約2万人の来街者を見込む
- ・国の産業革命発祥の地としての歴史やアイデンティティ(世界遺産)を有する
- ・製鉄所やリサイクル産業、Yahoo、ソフトバンク、EPSON等先端企業や医療機関などの産業が集積
- ・「北九州市・東田 Super City for SDGs 構想」を国へ提案し、産業基盤を活かした先端プロジェクトが進行中
- ・スペースワールドのレガシー(記憶や知名度)の活用

課題

- ・東田地区全体の官民連携による観光振興策づくりや推進・マネジメント体制の再構築
- ・旧スペースワールド跡地の複合集客施設開業に伴う新たな地域ブランドやイメージの確立
- ・東田ミュージアムパーク、世界遺産関連施設と民間集客施設等の連携による集客力の強化
- ・東田大通公園などのオープンスペースを含むエリア一体の回遊性向上
- ・「スーパーシティ for SDGs 構想」等による実証プロジェクトの観光コンテンツ化
- ・デジタル技術など先端技術の導入による新たな観光スタイルの創出
- ・周辺地域との連携ならびに波及効果の発現

施策の方向性

- (1) 持続可能な観光都市拠点の形成
- (2) 地域ブランディング、マーケティングとマネジメント
- (3) 地域特性・資源を活かしたコンテンツ開発
- (4) 快適で魅力ある都市空間・基盤の一体的整備
- (5) 情報発信・コミュニケーションの戦略的活用
- (6) 多様な文化、ライフスタイル・ワークスタイルの創出
- (7) 周辺地域の連携による相乗・波及効果の発現

基本戦略

- (8) 官民連携総合推進体制の構築
- (9) 持続可能なツーリズムを担う人材の育成

推進体制

アクションプラン

- サステナブル・ツーリズムへの対応：グリーンディステイネーション認証取得など
- 地域固有のプレイス・ブランディングの構築
○観光 CRM (Customer Relationship Management) システムの導入
- SDGs ツーリズム：SDGs をテーマとする地域探求ツアーの開発
○スマートシティ・ツーリズム：先端実証等を体験する常設博覧会ツアー
○世界遺産・産業ツーリズム：産業革命遺産関や工場見学等のコンテンツ総合活用
- オープンスペースの整備・活用：東田大通り公園の利便快適性向上施設・空間整備
○多様な交通ネットワーク基盤の整備：地域のトランジット・ハブの形成
- 無線 LAN ネットワーク等の一体的基盤整備とビッグデータの活用
○多様な双方向メディアの活用
○デジタルとアナログを融合した情報の受発信
- 地産地消に加え、SDGs に配慮した新たな「食文化」の提案
○ウエルネス、スポーツ、アウトドア活動の体験機会の提供
○芸術・文化活動の振興：SDGs をテーマとするアートイベント等の継続開催
- テーマ性のあるツアー・活動等による連携：食、ウエルネス、アウトドア、産業遺産等のテーマ毎の地域間連携
- 官民連携エリア・プラットフォームの構築
○PMO (プレイス・マネジメント・オーガニゼーション) の設置
- ガイド、インタープリター等の育成：多様なニーズに対応する専門人材育成

4 -4-8-2 持続可能な集客拠点づくり：サスティナブル・ツアー開発 八幡東田未来共創ビジョン

サスティナブル・ツアー（イメージ）
EXPLORE THE SDGs WORLD

キッチンカー委員会
「プラントミート・リターナブル容器」



EPSON販売
「KAMIKURUプロジェクト」



THE OUTLET
「Kitakyushu Global Gateway」



北九州市新科学館
「科学の可能性の探求」



枝光
「おでかけ交通」



JICA九州
「世界の現状・国際協力」



IGES北九州
アーバンセンター
「持続可能な都市づくり」



関心・テーマに合わせて
SDGsスポットを巡る探求ツアー

世界文化遺産
「官宮八幡製鉄所
旧本事務所、東田第一高炉」



枝光アイアンシアター
「地域コミュニティ活動」



いのちのたび博物館
「地球の歩みを知る」



わくわーく
「障害者就労支援・地域活動」



北九州市環境ミュージアム
「SDGsを学ぼう」



NPO法人里山を考える会
「里山トラスト会議」



認定NPO法人
フードバンク北九州ライフアゲイン
「食品ロス削減」



4-5

街区の将来イメージ



八幡東田

